

# 国語科学習指導案

日時 令和元年 7月 4日 (木)  
児童 5年生 男子 名 女子 名 計 名  
授業場  
授業者

## 1. 単元名「椋鳩十作品の魅力を解説書で推薦し合おう」～大造じいさんとがん～

### 2. 単元の目標

物語の魅力を解説書に書いて推薦する言語活動を通して、大造じいさんの言動や心情描写及び情景描写等に注目することで、残雪との相互関係をとらえ、心に残る優れた叙述や作品の全体像についての自分の考えをまとめながら読むことができる。

### 3. 単元観・児童観・指導観

本単元では、「大造じいさんとがん」を中心教材として、学習指導要領 C「読むこと」のイ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」、エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」をねらいとする。

子供たちはこれまでに、「読むこと」領域の中では、「ショーウィンドウで推薦しよう」という単元を物語文「いつか、大切なところ」を用いて学習してきた。「場面の描写と関連付けて、登場人物の心情の移り変わりを読む」ことを中心に学習してきた。心情曲線などを用いることで、「登場人物の心情の移り変わり」については、感覚的に理解していく子供の様子が見られた。しかし、場面の描写と登場人物の心情を関連付けながら読む力を身に付けさせていくことが課題として残った。また、言葉一つ一つを捉えながら詳細に読もうとする姿勢は見られたが、文章全体の構成に着目したり、文章の前後を比較したりしながら読み進めるといった点について課題が残った。

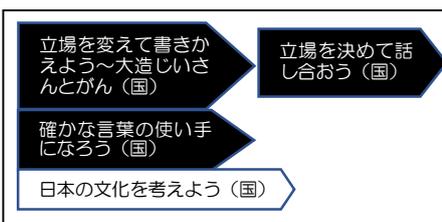
そのため、手立ては大きく2つある。

1つ目は、「**学びの必要性を生み出す課題設定Ⅰ**」である。椋鳩十作品の解説書の言葉「感動は心の扉を開く」を紹介することにより、作品のよさを味わう視点や学びの見通しをもちながら、子ども自身が読みの目的意識をもつための工夫を行う。「なぜ、このような解説書の言葉を書いたのか。」「感動はどこから生まれるのか。」などと読みの視点を絞ることにより、学びの見通しをもち、その価値を自覚しながら、作品のもつ表現上の工夫に着目し、優れた叙述を味わえるようにする。また、「解説書（人物関係・表現の効果・作品の魅力）で推薦し合う（学級の仲間）」という言語活動を設定し、自分の読書への価値観が広がるかもしれないという期待感をもてるようにすると同時に、学びの実感を味わえるようにしていく。

2つ目は、「**既存の思考を揺さぶる発問・問い返しにより、子供相互の対話を活性化させるⅡ**」である。既存の「言葉の意味、働き、使い方等」の見方を揺さぶり、新たな「見方」が必然的に引き出されるようにする。例えば、「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかったのは、どうしてか？」など、物語の全体像を明らかにするための矛盾点を考えさせたり、『感動は心の扉を開く』とはどういうことか」など、学びの必要感のある問い返しをしたりすることで、子供相互の対話を活性化させていく。

この手立てにより、「言語活動のイメージの変容」や、「自己選択・自己決定していたことと現在の自分の変容」などの学びの自覚化を図ったり、学んだ内容を生かしてできるようになったことを考えたりし、以後の学習につながる見通しをもつことができるようになる。

## 4. 学年・学級経営年間プログラムとのかかわり



国語科の学習において、目的や意図を重視して読んだり書いたり話したりする活動を核として、情報の構成や展開、表現の工夫に着目しながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする力を育む。

このような学びの過程の有用性が自覚されることにより、見方・考え方を働かせ、「コミュニケーション力」の育成を図っていく児童の姿を引き出していく。

## 5. 単元を通して育むリーダーシップ・フォロワーシップに関わる資質・能力

本単元では、大造じいさんの残雪への見方・考え方の変化を明らかにし、優れた叙述について自分の考え

をまとめることができるようにしていく。個人思考時では、大造じいさんの言動や心情描写及び情景描写に着目したり、残雪との相互関係を考えたりするなど多様な視点から思考する姿が想定される。集団思考時においては、それぞれが働かせた多様な見方・考え方について他者が関わっていくことで、共有する、補完する、統合する、納得解を導くなどして見方・考え方を鍛え拡充しながら、「コミュニケーション力」の資質・能力育成を目指す。

## 6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしたり、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使ったりすることができる。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 イ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	ア 作品の叙述を比較するなどして読み、わかったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめようとしていたりしている。

## 7. 単元計画

椋鳩十作品を並行読書する。

時数	○主な学習活動	評価の観点			学び合いの過程 <b>手立て</b>
		知	思	主	
1	○椋鳩十作品の解説書「感動は心の扉を開く」を紹介することで、感動は作品のどの部分にあるのかを考えながら目的意識をもって作品を読むようにする。 ・解説書のモデルを見て、単元のゴールを見通す。 ・解説書で物語の魅力を紹介し合うことによって、自分の読書への価値観が広がるかもしれないという期待感をもてるようにする。	ア			<b>手立てⅠ</b> ・椋鳩十「感動は心の扉を開く」「解説書のモデルを読む」ことで、単元の見通しと、作品を読む目的意識をもてるようにする。  <b>手立てⅡ</b> ・大造じいさんの立てた作戦を中心に、あらすじを大まかに読むことができるようにする。
3	○解説書を記述することを見通し、「大造じいさんとがん」のあらすじを大まかに読む。～あらすじを読む～		ア		
4	○解説書を記述することを見通し、大造じいさんと残雪の人物関係を読む。～人物関係を読む～		ア		<b>手立てⅡ</b> ・大造じいさんと残雪の相互関係に関する表現に着目し、人物関係を読むことができるようにする。
5	○解説書を記述することを見通し、「あかつきの光が～」や「東の空が真っ赤に燃えて」などの情景描写と大造じいさんの心情を照らし合わせて読む。～表現の効果（情景描写等）を読む～		ア		<b>手立てⅡ</b> ・「東の空が真っ赤に燃えて」などの情景描写と大造じいさんの心情変化と照らし合わせるようにする。
6 (本時)	○物語の「自分がお薦めする場面」について解説書の作品の魅力の「骨の文」を書く活動を通して、優れた叙述や登場人物の見方・考え方の変化を関連付けながら場面の移り変わり（物語の全体像）を読み、自分の推薦する場面について考えをまとめる。 ・「銃を下ろしてしまったという行動」「強く心を打たれた理由」に着目することで、大造じいさんの残雪に対する見方・考え方の変化を考える。		イ		<b>手立てⅡ</b> ・「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかったのは、どうしてか？」など、物語の全体像を明らかにするための矛盾点を考えさせたり、「『感動は心の扉を開く』とはどういうことか」など、学びの必要感のある問い返しをしたりすることで、子供相互の対話を活性化させていく。
7 8	○大造じいさんとがんの解説書を書き、学級で紹介し合う。 ・大造じいさんとがんの解説書を学級で読み合うことで、読書カードにも生かせようという学びの実感を得ることができるようにする。			ア	<b>手立てⅠ</b> ・読みの目的意識と「大造じいさんとがん」の教材文の解釈をつなげることができるようにする。

## 8. 本時案

### (1) 本時の目標

物語の山場とその理由を考える活動を通して、優れた叙述や登場人物の見方・考え方の変化を関連付けながら場面の移り変わり（全体像）を読み、物語の魅力について考えをまとめることができる。

### (2) 本時の展開（6／8）

<b>学習活動</b> <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">児童・生徒の姿</span> ○教師の働きかけ・発問（△補助発問，□指示・説明） <b>手立て</b>	<b>【評価の観点】</b> ◇評価の内容 ・指導上の留意点
<b>1 前時までの活動を想起し、本時で考えることの見通しと必要感をもつ。</b> ○物語の魅力を紹介するために、「人物関係」「優れた表現」の他に必要なことはありますか。 <b>手立て I</b> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ・物語の魅力を紹介するためには、物語の山場の場所をはっきりさせたいな。山場を見つけて、理由を考えることが物語の魅力を紹介することにつながるかもしれないね。                     </div>	・必要に応じて、前時までの児童の発言やノートの記述を提示し、本時で考えることの見通しと必要感をもてるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>物語の「山場」と言える場面とその理由をはっきりさせて、作品の魅力について考えよう。</b> </div>	・児童の発言を理由ごとに板書で整理する。
<b>2 「大造じいさんとがん」を読み、物語の山場とその理由をノートに書いたり、交流したりする。</b> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ・私が山場だと思ったのは、7場面の「さあ、いよいよ戦闘開始だ。東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」のところだな。情景描写も使われているしね。                          →大造じいさんの思いの高まりは感じられるね。でも、山場は登場人物の心情ががらっと変わるところだから、山場と言える理由としてははっきりしていないかもしれないね。                          ・ぼくが山場だと思ったのは、7場面の「大造じいさんが銃を下ろしてしまった」のところだよ。きっと大造じいさんの気持ちが変わったからだよ。                          →なるほど。銃をおろすってことは、今まで、「たかが鳥」やいまいまして感じていた残雪への気持ちがなくなったのかもしれないね。                          ・やっぱり7場面の「ただの鳥に対してのような気がしませんでした」ところが山場だと思うな。仲間を助ける姿や頭領らしい、堂々たる態度から見方が変わったと思う。                          →そうだね。強く心を打たれたって書いてあるしね。私も、〇〇さんと同じところが山場だと思うな。                     </div>	・自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の記述や発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。 ・大造じいさんの残雪への見方・考え方の変化を捉えている児童を意図的に指名し、残雪への見方の変化を学級全員で共有できるようにする。
<b>3 物語の山場はどこなのか、叙述を根拠に精査・解釈する。</b> ○大造じいさんが銃を下ろしてしまったのはどうしてか。 <b>手立て II</b> ○強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかったのはどうしてか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ・じいさんが猟銃を下ろしてしまった7場面は、これまでの残雪に対する気持ちが変わったと言っていいんじゃないかな。                          →銃をおろしたのは、残雪とはやぶさの戦いを目の当たりにしたからだよね。                          →でも、この場面で何年も捕まえようとしても捕まえられなかった今までのいまいましてがなくなったのかな。いまいましてがなくなったというよりは、残雪の仲間を助けようとする迫りに驚いて銃を下ろしたのかもしれない。                          ・7場面の大造じいさんが残雪から頭領の威厳を感じ、「ただの鳥に対してのような気がしなかった」ところだね。                          →きっと、傷ついていても最後まで堂々とした態度でじいさんと向き合った残雪に心を打たれたんだね。ここで相手をライバル・自分と同等以上の存在として認めたんだね。                     </div>	・必要に応じて、「感動は心の扉を開く」という作者の言葉を提示する。 <b>【思】</b>
<b>4 本時の学習を振り返り、お薦めしたい場面とその理由を決めて、解説書の作品の魅力の「骨の文」(中心となる文章)を書く。</b> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ・私は、残雪を「たかが鳥」と見下していた大造じいさんが、命がけでハヤブサから仲間のガンを助け、けがをしても人間をにらみつける残雪の姿を見ることによって、残雪を「いかにも頭領らしい堂々たる態度」と尊敬するようになったという大造じいさんの見方の変化を書きたいな。                          ・大造じいさんは、残雪をただの仕留めるべき獲物ではなく、「ガンの英雄よ」と呼びかけたように、自分と同等以上の存在として認めたことを書くよ。                     </div>	◇物語の山場とその理由を考える活動を通して、優れた叙述や登場人物の見方・考え方の変化を関連付けながら場面の移り変わり（全体像）を読み、物語の魅力について考えをまとめることができる。

